



自ら動き、感じ、楽しむ  
～笑顔あふれる幼稚園～

NO. 4 令和元年7月17日発行  
山口大学教育学部附属幼稚園  
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

梅雨時季らしい雨はわずかでしたが、雨を集めたり、雨音を聞いて音の違いに気付いたりして、子どもたちなりに楽しんでいる姿が見られました。今学期も残り少ないですが、終業式と洞窟探検が晴れて終わられるように願うばかりです。そして、楽しい夏休みを迎えられるように、たくさん食べて、たくさん寝て、元気にお過ごしくださいね♪



### 幼稚園まつりへのご協力ありがとうございました!!

先日の第36回の幼稚園まつりでは、『世界にはばたけ、ぼくの夢、わたしの夢』をテーマに幼稚園まつりが開催されました。今年暑さ対策のため、午前日程での開催になりましたが、実行委員・協力委員の皆様、ピーマンJr. の会の皆様をはじめ、多くの方々に準備から片付けに至るまでご協力いただきました。保護者の皆様の多大なるご協力のお陰で盛会に終えることができました。厚くお礼申し上げます。



### 幼稚園まつりまで「7ク7ク」の毎日♪

7月になると、幼稚園まつりを楽しみにしている子どもたちの踊りの掛け声『とのさま～とのさま～おとのさま～よいよ～い!』『ソレ!ソレ!ソレ!』などが聞こえてきます。

最後の幼稚園まつりで気分が入っている星組は、幼稚園まつりのために手づくり提灯を画用紙でつくったり、おみこしをつくり始めるとき、「今年の星組さんのおみこしどんなのにしようか?」と子どもたちに聞くと「ハートがいっぱいなおみこしがいい。」「いいね。」「きょうりゅうおみこしにしたい。」「ぼくも、それがいい!」「星いっぱいきれいなおみこしにしたい。」など、いろいろなアイデアが出ました。中には、おまつりのレイアウト図を家でかいてきて「こんなのはどう?」とみんなの前で紹介してくれる子もいました。

また、7月のクラスの壁面も幼稚園まつりのためにどのような壁面がいいか子どもたちが考えました。「幼稚園まつりのときって夏だし暑いから、涼しいのがいいね。」「海の絵だったらプールみたいで涼しいかもよ。」「それいいね!」と星組1の子どもたち。「おばけがいっぱいの



お部屋にするとみんな寒くなるかもよ」「お～!それにしよう。」と星組2の子どもたち。それぞれがおまつりにくるお客さんのことを考えながらアイデアを出し合って壁面が完成しました。みんなで何かをつくりあげることが嬉しくて、その過程でいろいろな考えが出てくるのも楽しくて…など、星組のこの時期は、いろいろな考えをみんなで出し合っていき、1つのものをつくっていくのが楽しいのだなと感じました。また、お友達のアイデアに「それいいね!」や「お～それにしよう。」など、肯定的な言葉を発してくれる子どもが多く、自分の考えを受け入れてくれる友達がたくさんいることは集団として大切なことだなと改めて感じました。

子どもたちは、「あと何回寝たら幼稚園まつり?」「幼稚園まつり早く来ないかな?」など、指折り当日まで楽しみにしていました。当日はもちろんですが、おまつりを迎えるまでの時間も子どもたちにとって大切なひとときになっているのですね。

(福田)

### 保健室から見た子どもたちのようす(1学期のようす)

毎朝、職員室で欠席連絡を受けたあと、「子どもたちは笑顔で登園してるかな?」「お休みしていた人は来ているかな?」「昨日のけがは大丈夫かな?」などと子どもたちを思いながら各保育室を回っています。まず、昨年度から顔見知りの星組さんや風組さんは、お部屋に行くと、「今日のお休みは誰がいる?」と聞きながら一緒に調べてくれたり、子どもたちの方から「今日は〇〇ちゃんがお休みだって。」と教えてくれたりします。また、「今朝、咳が出るから病院に行ってきたよ。」とか「〇〇ちゃんはおなかか痛いんだって。」と教えてくれることもあります。自分の体のことやお友達のことにも関心をもって過ごしているのだと頼もしく感じています。



風組の新入の子どもたちは、1学期の初めの頃は怪訝そうに不安な表情で見つめていましたが、この頃は、一人で保健室にやってきて「けがをしました。」とか「本当はプールが不安なんだ～」などの話ができるようになっていきます。子どもたちの姿になんとか誇らしささえ感じます。

そして、花組さんとはいうと、こんな様子です。私の存在を知らない入園当初は、どの子どもも警戒心の塊のような表情で私を迎えていました。ですが、毎日お部屋を訪問しているうちに、そして健康診断でお家の人と何度も保健室を訪れることを繰り返したお陰なのか、今では保健室を身近に感じてきたようです。5月の身体測定は、生活に慣れている保育室で行いましたが、7月には保健室でみんなが笑顔で身体測定を行うことができました。とっても上手に出来ました。

こんなふうに保健室や保健室の先生に慣れてきた子どもたちは、けがをしたり体の調子が悪かったりしたときだけでなく、ちょっと困ったときや不安になったとき、そして気持ちを落ち着かせたり切り替えたりしたいときに保健室を訪れることがあります。お友達のことやお家での出来事、楽しかったことや嫌だったことなどその時々気持ちを話していきます。その子どもたちのつぶやきに耳を傾け、できるだけ心に寄り添

うように関わることで、子どもたちは笑顔になりお部屋に戻っていきます。

その時は元気がなくても、気持ちを担任の先生やお家の方に伝えることで笑顔になることもしばしばです。子どもは接する人によって見せる顔が違うともいわれます。お家の人、担任の先生、そして保健室。それぞれの場での子どもの姿をみんなで共有しながら、一緒に子どもの成長・発達を支えていきたい、その中に保健室も入れていただきたいと改めて思った1学期でした。2学期以降も引き続きよろしくお願ひいたします。

(松村)

### 1学期を振り返って



新しい保育室、新しい幼稚園での生活が始まった4月。ドキドキワクワクして張り切って生活を始めた子どもたちもいれば、不安そうな表情の子どもたちもちらほら見受けられました。

星組さんは、昨年度末から「いつになったら星組さん?」「今度新しい風組さんと花組さんがくるから、ぼくたちがお世話するんよね。」と進級をとっても心待ちにしていました。星組になって、グループ活動やカレーづくりなど、生き生きとした表情で取り組んでいる姿を見て、星組での生活を存分に楽しんでいるのだなとうれしく思いました。花組さんや風組さんのところにもよく駆けつけてきて、「先生、大丈夫?」「先生、任せて!」と頼もしい声もかけてくれる姿に、「附属幼稚園のお兄さんお姉さん」という気持ちになってきているのだなと感じる日々です。

風組さんは、15名と16名でゆったりとした日々になるかと思いきや、「そうだ!いいこと考えた!」「先生、私もやってみたい!」とすてきなアイデアいっぱい、思いがいっぱいな子どもたちのおかげで、毎日こちらの頭もフル回転させながら一緒に過ごしています。「星組さん、カレーつくったの?来年はぼくたちよね」という声が聞かれたり、花組さんにそっとドレスを着せてあげていたり、星組さんの事も意識しつつ、花組さんにはやさしくしようとしている姿が見られます。

花組さんは、初めての幼稚園にドキドキしつつ、あたたかい職員に見守られながら、少しずつ思いを伝えてくるようになり、行動範囲を広げてきました。毎朝、風組にいる私の所に、「ドレス貸してください」と声をかけに来る子どもたちや、「今からね、おやつ食べるんよ」と話しかけてくれる子どもたちの姿も見られ、花組さんのペースで附属幼稚園での生活に慣れ、楽しんでいるのだなと感じています。

このように、子どもたちが安心して幼稚園に来て、1学期を無事に終えることが出来そうなのは、日頃のご家庭での保護者の方々のかかわりがあってこそです。しっかり話を聞き、思いを受け止めてくださっているおかげで、子どもたちは遊びに集中することが出来るのだなと感じています。これから夏休みに入ります。ゆっくりとした時間を…とはいかないかもしれませんが、子どもたちも、保護者の方々も、1学期頑張った分をしっかり充電して頂いて、また元気な姿で2学期に会えることを楽しみにしています。1学期、どうもありがとうございました。

(厚東)

